

学会からのメッセージ

## 「おもちゃーエコのめばえ」

2011.3.11以降、私たちの学会では東日本大震災の災害廃棄物問題が大きなテーマとなった。多くの人々が被災地に向った。

被災者の助けになろうとして、また自治体や国の

施策への学術的な課題に立ち向う

ために。そして学会は2012年5月に、

「災害廃棄物分別・処理実務マニュアル」を発刊している。

この中に「貴重品・思い出の品」の項目がある。

現地で災害対策を行う

優先順位は生存者救助、

行方不明者の捜索、

住民の公衆衛生問題

(水、食料品、トイレ等)、

インフラ整備…そして

最後に災害廃棄物の処理。

「思い出の品」は生活した

人々の生々しい事実をつきつけ

る。子供たちが使っていたであろ

う人形やおもちゃなどをみると、自らの

過去や自らの子供が使っていたものを思い出し、

人の命の尊さ、有難さを感じさせ、亡くなった人への追憶を

引き出すのではないだろうか。



イラスト：横山宇加  
©uka.Yokoyama

人が命を受け、大人になる過程で、さまざまなものに出会う。最初

に出会うのがおもちゃかもしれない。おもちゃに育まれて大きく

なる。少し大きくなって、自らが遊ぶおもちゃ。そして

いっぱい集めたフィギュアやおまけは「私」

だけの大事な宝物。かたや、知育と

して学ばせるおもちゃの系列が

ある。大人になっても、い

ろいろなゲームは楽しい。

おもちゃは物理的にまた

精神的に成長するため

に不可欠なもの・道具

といえる。大人や社会

を学ぶための教育的な

役割をもつ一方で、お

もちゃは「もの」でもある。

買って使って捨てるモノ、

潜在的なごみでもある。その

行方は？環境にやさしいエコ

なおもちゃってあるの？“いのち”

を内在するおもちゃを長生きさせるには

どうする？

私たちの身近にある“もの”から廃棄物を考える旅を企画し

ました。今回は「おもちゃ」が題材です。